

〈その他（副読本）〉

日本史副読本 —千葉からみる日本史—

塩 出 浩 和

【要旨】

城西国際大学には多くの留学生が学んでいる。彼らの多くは、出身国の中学・高校で比較的詳しい自国史と基礎的な世界史を学んできただろう。一方で、日本の中学・高校で学ぶレベルの日本史の既修者は少ないはずだ。日本史の基礎的知識がなければ、本学における一部授業の理解は難しい。

また、日本人学生にしても、日本史の初歩的知識に基づく教養がなければ、現代日本社会の諸問題を的確に把握できないだろう。

そこで、日本語能力試験N1レベル以上の留学生と日本人学生のために日本史の主テキストとともに読むための副読本を編んでみた。その際、視点を千葉県そして東金市という地域に置いた。身近な場所から歴史を考えるヒントを提供したい。

なお、筆者はこの副読本の初歩的な案を2020年の城西国際大学日本語教育研究会で既に報告している。本稿はこれの改訂増補版である。

なお、本副読本の作成にあたっては、末尾の参考文献一覧に掲げた文献を参照した。

キーワード：留学生履修日本史、副読本、千葉視点

1. はじめに

千葉県とはどんなところだろうか。本州の東部、東京都の東・茨城県の南に接し、東京湾を隔てて西側の神奈川県と向かいあっている。「関東」と呼ばれる地域の東南角にあたる。また、千葉県の地域は「房総」とも呼ばれる。

面積は5,158平方キロメートル（km²）で47都道府県のなかでは真ん中あたりの第28位。一番大きな北海道の約16分の1、一番小さな香川県の約3倍。人口は約628万人（2023年）で第6位。第1位東京都の半分よりわずかに少ないくらい、一番人口が少ない鳥取県の12倍程度である。

現在千葉県となっている地域は先史時代と古代において、日本列島のフロンティア（開発の前線）であった。とりわけ縄文時代には海岸や河川岸の低い丘陵地に集落が作られていた（千

葉市の加曽利貝塚など)。弥生時代になると、九州北部での稲作開始から約700年遅れて米が作られはじめ、低地平野に集落が営まれた（佐倉市の大崎台遺跡など）。

古代律令制下の旧国名は上総・安房・下総であった。平安時代の私営田領主であった千葉氏は鎌倉時代に幕府の重臣となった。

江戸時代には譜代家臣団諸氏の所領となった。房総の諸藩の中では堀田氏の佐倉藩が最大だった。第5代藩主の堀田正睦（ほったまさよし）は2回幕府老中（幕府行政の中心となる役職で現代の内閣総理大臣にあたる）となった。佐倉では蘭学が盛んだった。

さて、城西国際大学のメインキャンパスがある東金市はどんなところだろうか。面積は89.12㎢で千葉市の約3分の1、人口は56,966人（2024年9月1日）で千葉市の約15分の1である。江戸時代には徳川將軍家の鷹狩場があり、江戸からはほぼ直線の「御成街道（おなりかいどう）」が作られた。現在は千葉東金道路や東金線・外房線で千葉市と結ばれ、東金駅から千葉駅まで鉄道で約35分である。このため、千葉市への通勤率が約13.7パーセントとなっている。丘陵地には良質の材木となる山武杉を産する。

2. 地勢・気候・植生

約2万年前に、それまで海面下にあった千葉県域の大部分が陸地化した。

半島は陸上交通の視点からは僻地だが、海上交通が主だった時代は逆に半島先端の方が他の地域からはアクセスしやすかった。そのため、南部が上総（かずさ）、北部が下総（しもうさ）となった。

千葉県の地勢には、平地と丘陵が続く険しくて高い山がないという特色がある。標高500メートルに達する山が無いのは日本の47都道府県では千葉県だけである。茨城県との県境である利根川、東京都との都県境である江戸川を除いては大きな川もない。しかし、このことは人が住んで農業を営むことができる場所が広いことも意味する。また、半島なので、陸地面積に比べて海岸線が長大である。

千葉市の年間降水量は約1,500ミリ、夏季の平均最高気温は約31度、冬季の平均最低気温は約2度である。冬季の降雪は比較的少ない。南部ではやや降水量が多く、館山市では年間1,800ミリ程度の降水がある。四季の区別が比較的つきやすい典型的な温帯気候である。しかし、近年は地球規模の気候変動の影響により、千葉に襲来する台風の強大化や短時間での急激な降水量の増加、気温の上昇などの現象がみられる。そのため、沿岸で漁獲できる魚種の変化も観察されている。

2019年の台風19号（令和元年東日本台風）は全国で105名、うち千葉県で1名の死者をもたらした。千葉県内では広範囲の停電、断水が起きた。

3. 先史・古代

韓国の人が言うところの「虎がタバコを吸っていたころ」、千葉あたりは日本の辺境だった。しかし、縄文時代には海や川に近い小高地に人が集まって住んでいた。房総地域では弥生時代中期の紀元前3世紀頃に稲作が始まったらしい。中国の長江流域（湖南省彭頭山など）では紀元前8000年頃には稲作が始まっていたので、稲作が中国から日本の本州東部に伝わるのに7000年以上かかっているわけだ。因みにベトナムでは紀元前2500年頃、朝鮮半島南部では紀元前800年頃に稲作が開始されている。

千葉県は東日本の中では古墳が多い県で、紀元後200年頃から700年頃までに造られた8,000基以上の古墳が確認されている。これは、畿内の政治勢力とこの地域が深い関係にあったことを示している。この頃の中国は後漢から魏晉南北朝・隋・唐の時代である。ベトナムではドンソン（東山）文化（Văn hóa Đông Sơn）の終わり頃に近い時期である。

ヤマト政権は、今の千葉県のあたりを「総の国（ふさのくに）」と呼んでいたが、やがて西日本から海路で来て最初に着く南半分を上総、不便な北半分を下総とした。養老2（718）年に、上総から半島南部の安房（あわ）が分離した。安房の地域は現在の鴨川市や南房総市にあたる。

平安時代、律令制下の房総には多くの「牧（まき）」が設置され、良馬の産地であった。上総は親王遙任の地、安房は犯罪者の配流地ともなっていた。

935年から940年の「平将門（たいらのまさかど）の乱」では下総が将門根拠地のひとつとなった。この乱は中央軍事貴族が地方の武門に変化する転換期を示すものとなっている。

平安末期の軍事貴族政権を率いた平清盛（たいらのきよもり）は宋と盛んに貿易をしていた。房総地域の一部にも平家に連なる武人たちが勢力を築いていた。

4. 中世

平安時代と鎌倉時代を分ける源平合戦（1180年から1185年）の帰趨を決したのは房総地方である。源頼朝（みなもとのよりとも）¹ が鎌倉を拠点に東国政権（鎌倉幕府）を開いた時、房総の武士たちは頼朝を助けて活躍した。房総平氏の系統であった千葉常胤（ちばのつねたね）は頼朝の挙兵に協力した。西国の平氏（これを普通「平家」と呼ぶ）とは別の血筋の平氏一族が千葉にはいたのである。

源頼朝の東国政権にとって房総地域は重要な経済的かつ政治的な基盤のひとつであった。頼朝の政権は1183年に後白河法皇から東国支配承認の宣旨を受けているが、その後房総の御家人たちに未開地の開墾を命じている。房総地域は頼朝に従う御家人たちの軍事力を経済的に支えた。

鎌倉時代の初期に中国から禅宗が伝わり、臨済宗が上層武士層に、曹洞宗が地方武士層に広がった。漢文に明るい禅僧は日中間の外交の場面でも活躍した。このため、鎌倉には多くの臨済宗寺院が開かれた。この時期の中国は宋から元への交代期である。元の日本侵攻（1274年

と1281年)は日本の政治経済に大きな変化をもたらした。

鎌倉新仏教の一派である法華宗(日蓮宗)は、宗祖の日蓮(にちれん)が安房の出身であったこともあり、中世の房総では広く普及した。

鎌倉時代房総の上級武士は京との行き来も比較的盛んであった。彼らが京から和歌などの文化要素をこの地に移植した。例えば、千葉常胤の子孫で東庄(とうのしょう)を領した東氏の胤頼(たねとも)は、都の上西門院に仕え、藤原定家(ふじわらのていか)の弟子になったと伝えられている²。胤頼の嫡子重胤(しげたね)はしばしば源実朝(みなもとさねとも)の歌会に参加している。実朝の『金槐和歌集』成立は、都と坂東を文化的に結びつけた房総武士の貢献によるところが大きかったと考えられている。

北条一門に権力が集中した鎌倉幕府は次第に御家人たちの信奉を失なった。1333年、後醍醐天皇の呼びかけに応じた武士らが蜂起し、鎌倉幕府は滅亡した。北条氏に不満があった房総の御家人が相次いで討幕・後醍醐天皇方に寝返ったことが幕府の命運を決定したひとつの要因であった。しかし、天皇親政期は約3年で終了し、京都で足利尊氏によって開かれた室町幕府の支配が東国にも浸透するようになる。後醍醐天皇は吉野に逃れ南朝を建てたため、日本に2つの王朝が並立するという南北朝時代が1392年まで続いた。

皮肉なことだが、鎌倉幕府の滅亡が当時の東金市域に鎌倉文化の移入をもたらしている。鎌倉から逃れた北条氏家臣の一部が現在の東金市極楽寺に落ちのびたのである。極楽寺という地名自体が鎌倉ゆかりであるという³。

室町期の房総でも千葉氏が有力であったが、同族内での抗争や旧来の土着領主(安房の丸氏や安西氏など)との勢力争いもあった。千葉氏の有力者千葉介貞胤(ちばのすけさだたね)は当初南朝についたが、尊氏に降伏して、下総守護となった。一方、上総では足利氏が有力で守護職を確保していた。しかし、守護たちの権力も盤石ではなかった。鎌倉の諸寺院も房総に所領を持ち、代官や庄主を任命し、直接支配を目指した。

戦国期には里見氏系国人と北条氏系国人が対立したが、豊臣秀吉の小田原征伐後、房総は徳川家康の影響下にはいった。

中世期から近世期の房総地域は戦乱が多かったが、一方で村落共同体が育ち、農業生産は増加した。気候の低温化があった平安末期から鎌倉初期、農民たちは谷戸(やと)と呼ばれる河川谷の小規模平地に水利施設を集団で整備し、農業生産力を確保したわけだ。また、物流と商業活動も一定程度発展した。問丸(といまる)は陸路と東京湾を往きかう船によって鎌倉公方のもとに米や野菜その他の物資を運んだ。禅宗・法華宗・時宗などさまざまな仏教宗派が房総地域に入ったが、民衆の多くは特定の宗派にとらわれない信仰活動を実践していた。

鎌倉から室町・戦国にかけて房総地域には多くの城塞が造られた。例えば、城西国際大学がある東金市には東金城跡がある。15世紀半ばには東金城があり千葉氏の家臣が入部していたらしい。16世紀には東金酒井氏の城となり、小田原を拠点とする北条方の拠点のひとつであった。この城があった場所には現在、千葉県立東金高校が建っている。また、隣の山武市には

成東城跡がある。標高45メートルほどの独立台地にあり、戦国時代後期、安房里見氏と対立する勢力がいたらしい。東金酒井氏の支城であったと推定されている。日本の他の地域と同様に、中世の房総地域では中小武装勢力が互に対立し戦乱が絶えなかったということである。

5. 近世

日本の歴史で「近世」というと安土桃山時代から江戸時代までである。16世紀後半から19世紀後半までにあたる。ベトナムのタイソン（西山）朝（Nhà Tây Sơn）からグエン（阮）朝（Nhà Nguyễn）の前半時期とかさなる。中国の明清代、朝鮮の李氏王朝期にあたる。

豊臣秀吉の小田原攻め（1590年）の時、北条方についた千葉氏はこの時滅亡してしまった。

江戸時代に入ってから今の千葉県域内において最大となった藩は佐倉藩で、ここでは儒学とともに蘭学（オランダ語とオランダから伝えられた医学・天文学・地理学・化学など）が盛んだった。そのため、蘭学を学ぶなら「西の長崎、東の佐倉」と言われた。多くの若者が佐倉に「留学」したのである。東金市のとなり山武市の成東には「上総道学発祥之地」という石碑が立っている。

佐倉には、武田・土井・堀田・稲葉など徳川家の身内や譜代大名が入部し、彼らの多くが老中など幕府の要職に就いた。そのため、佐倉城は「老中の城」と呼ばれた。とりわけ、幕末の佐倉藩主堀田正睦は2回老中に就任し、天保の改革や日米修好通商条約の交渉で活躍した。また、彼は日本で初めて「英語の教師」を雇った大名であった。オランダ人がもたらした西洋医学（蘭方医学）の普及には特に熱心で、「順天堂」という病院を作った。今の順天堂大学の前身である。

1868年の戊辰戦争では市川や船橋で旧幕府軍と新政府軍の戦いがあったが、房総最大の譜代であった佐倉藩は新政府に帰順し、鳥羽伏見の戦いにおいて幕府側で戦った大多喜藩も地元では新政府に抵抗しなかった。1871年の廃藩置県では26もの県が房総地方に設置された。1873年には、新治県・印旛県・木更津県の3県に統合された。これらが「千葉県」としてまとまるのは1875年である。

近世期の房総地域は沼沢地の干拓が進み農業生産が伸びたほか、銚子では醤油醸造業、九十九里や南房総では沿岸漁業が発展した。太平洋岸航路が発達し、当時「上方」と呼ばれた近畿地方（とりわけ現在の和歌山県の地域）から上総・安房に多くの人々が来た。千葉県南部の漁村の人々の先祖には和歌山出身者が多い。

6. 近現代

明治期（1868年から1912年）、千葉県には多くの軍事施設が建ち、昭和初期まで「軍都」と呼ばれていた。当時の陸軍駐屯地は現在、陸上自衛隊習志野駐屯地になっている。戦後は、臨

海部を中心に重化学工業（製鉄や石油精製）が発達した。

大正時代は1912年7月30日から1926年12月25日である。2度の護憲運動（民主的な憲政を守ろうという運動。1912年と1924年）があり、「デモクラシー（民主主義）の時代」と呼ばれる。

1912年12月21日に長州閥の陸軍大将桂太郎が第3次桂内閣を発足させると、これに反対する国民運動（第1次護憲運動）が起きた。千葉県でも政友会千葉支部が「憲政の危機目睫に迫れり。吾等同志は国家の為め憤然決起して国政の横暴を倒し、以て憲政を擁護せざる可からず」と決議した。1913年1月には東金でも青年たちが桂批判集会を開いた。当時の東金はリベラルな政治文化をもっていたといえる。

1914年4月には第2次大隈重信内閣が成立した（大正政変）。1915年の衆議院総選挙では全国で立憲同志会系の議員が増えたが、千葉県でも同様であった。

第1次世界大戦（1914年から1918年）は日本経済に好景気をもたらしたが、千葉県の産業にも好影響を与えた。日本軍は青島でドイツ軍と交戦し、ドイツ領南洋諸島を占領した。しかし、第1次世界大戦は基本的には「ヨーロッパでの戦争」で、戦火から免れた日本や中国などアジア地域では民族資本が発展したのである。千葉県の財政収入も増加し、河川改修や道路整備が進んだ。

1920年には戦後恐慌が発生した。1923年9月1日には関東大震災が起これ、千葉県でも死者・行方不明者が1,346人、全壊家屋が13,767戸にのぼった。

1924年には清浦奎吾内閣に反対する第2次護憲運動が起きた。総選挙後の1924年5月には加藤高明の護憲3派内閣が成立した。この時期、千葉県出身の代議士では鵜沢總明（うざわふさあき）や関和知（せきかずとも）らが活躍した。

1925年には男子普通選挙法が成立した。千葉県会議員の普通選挙は1928年に初めて実現した。無産政党（労農党と社会大衆党）からの立候補はあったが、当選者は出なかった。

教育機関の整備も進められたが、大正以前に千葉県の県立女学校は千葉と東金の2校だけだった。東金は教育先進地でもあったわけだ。千葉県の小学校では手塚岸衛（てづかきしえ）が画一教育を批判する自由教育を始めて注目された。しかし、この動きは保守的な人々から一定の批判も受けた。

大正時代、千葉県の農村では小作騒動がたくさん発生した。1924年には日本農民組合千葉県連合会が発足した。この時代、千葉県の大規模工業は発展しなかった。大きなものは銚子と野田の醤油醸造業だけであった。野田醤油会社では労働組合もできた。1923年にはこの工場ですら218日間にもわたる激しい労働争議があった。

1929年の世界大恐慌は千葉県にも波及し、農産物価格が下落した。町村財政は逼迫し、公務員の給料を払えないところもあった。

1931年の満州事変では、千葉県から鉄道第1連隊や第57連隊（佐倉）が動員され中国に向かった。1932年には5・15事件が起これ、犬養毅首相が暗殺された。

1933年、日本は国際連盟を脱退した。この頃の日本では軍部の発言力が増大した。1937年7月7日には盧溝橋事件（中国では七七事件と呼ばれる）が起こり、日中戦争が本格化した。総力戦への国民の動員が始まった（国民精神総動員運動）。1933年9月、千葉県ではこの実施要綱が作成された。早起きや節酒・節煙などが奨励された。

1940年にはすべての政党が解散されて大政翼賛会が結成された。千葉県にも支部ができ、各地に部落会・町内会・隣組が作られた。そこでは、食糧増産や貯蓄奨励が呼びかけられた。

1941年10月、陸軍大将であった東条英機が内閣総理大臣に就任した。千葉県は政府から食料増産を命じられた。しかし、肥料が不十分で増産目標は達成できなかった。若い男性が兵士になり農村の労働力も不足していたからでもある。生徒・学生や女性が労働力として動員された。千葉の社会全体が戦時体制になった。

東京に近い現在の船橋・市川・習志野（津田沼）・千葉各市一帯には軍需工場がたくさんできた。習志野と千葉には陸軍の駐屯地があった。木更津や館山には海軍の施設が作られた。

1943年ころから太平洋各地で日本軍は負けはじめ、1945年3月には沖縄にアメリカ軍が上陸し、6月には沖縄における日本軍の組織的抵抗は終わった。

千葉県は1944年からアメリカ軍の爆撃を受けていた。市川・銚子・千葉では約3千人が死亡した。成東駅も爆撃され、多くの鉄道員や消防士が死んだ。日本軍は千葉県の九十九里浜がアメリカ軍の上陸地点になると想定した。しかし、1945年8月、広島と長崎に原子爆弾が投下され、8月14日、日本政府はポツダム宣言を受諾した。翌15日、天皇の玉音ラジオ放送で国民は日本の敗戦を知った。

8月末、富津と館山にアメリカ占領軍が上陸した。翌1946年7月には千葉市に千葉軍政部が設置された。軍政部は千葉県において連合国軍総司令部の指令が守られているかを監視した。

1946年4月には女性が参加した初めての総選挙が行われて、千葉県から女性議員が1人誕生した。1947年、日本国憲法が施行され、千葉県と県下各市町村に公選首長が誕生した。この時期、千葉県でも教育改革と農地改革が進んだ。中学3年までが義務教育となった。小作地の強制買い上げが進められ、小作地率は戦前の5割から1950年には1割2分まで下がった。千葉県農村は自作農中心となったのである。

1950年に勃発した朝鮮戦争後、千葉県の工業化が進んだ。1953年には千葉市で川崎製鉄が操業を始めた。同じ地域に火力発電所も建設された。農村では機械化が進む一方、農家の兼業化も進んだ。

1960年代以降は鉄道や高規格道路などの交通網が発達し、東京に近い地域で宅地化が進んだ。

成田空港問題は第2次世界大戦後最大の住民闘争を引き起こしたが、1978年に新東京国際空港（現在の成田国際空港）として開港した。1997年には東京湾アクアラインが開通した。アクアラインは東京湾岸の道路網と連結し、ベイエリアの一体性を高めている。ゴルフ場や温泉などの観光開発も盛んで、日本で一番人気のあるテーマパーク（東京ディズニーランドと東京ディズニーシー）には「東京」という名前がついているが、東京都ではなく千葉県にある。

日本の他の地域と同様に、千葉県の社会も高齢社会となっており、医療・福祉にかかわる諸制度の改革が求められている。また、二酸化炭素を大量に放出する製鉄所と火力発電所が多く立地する千葉県は風力や太陽光などを利用した発電設備の導入を進めている。成田国際空港があり、海浜幕張や北総鉄道沿線には国際的なハイテク企業やデータセンター・物流センターなども数多く設けられている。とりわけ北総鉄道沿線は地盤が比較的安定し、ある程度の標高があるので津波の心配がない。また、空路と陸路の交通ハブもこの地域にあるからである。ここで活躍する外国人も多い。千葉県は環境にやさしく、多様性を受け入れる地域構築が求められている。

【注】

- 1 一般に、平安時代までの人名は姓と名の間に「の」を入れて読まれるが、鎌倉時代以後は「の」を入れない。本稿では、出生年が平安期の人物については、鎌倉期に活躍した者についても「の」を入れて表記する。
- 2 千葉県史料研究財団編『千葉県の歴史 歴史編 中世』千葉県、平成19年、385-386頁。
- 3 東金市役所『東金市史 通史篇上六』東金市役所、平成5年、471頁。

【参考文献】

三浦茂一ほか編著『図説 千葉県の歴史』、河出書房新社、1989年。
千葉城郭研究会編『図説房総の城郭』、国書刊行会、2002年。
千葉県高等学校教育研究会歴史部会編『千葉県の歴史散歩』、山川出版社、2006年第1版第1刷、2019年第1版第5刷。
石井進、宇野俊一『千葉県の歴史』、山川出版社、2000年第1版第1刷、2018年第2版第3刷。